

上新田小「校長室だより」糸半

きずな

平成30年 3月22日

上新田小学校 文責 校長

平成29年度3月号 N012

教育目標「よく学び 心やさしく たくましく すすんで働く 上新田っ子」

卒業・進級おめでとう！



明日はいよいよ卒業式です。この学校のために一生懸命がんばってくれた6年生が6年間の思い出とともに上新田小学校を巣立っていきます。本当におめでとうございます。また、1~5年生も月曜日の修了式を終えて、次の学年へと1学年ずつ進級します。これまで頑張ってきたことをもとに新しい学年でさらに頑張る「凡事徹底」「自分もOK 相手もOK」の気持ちをずっと持ち続けてください。

さて、昨年も一昨年も載せた二つの話、今年は短く乗せます。ぜひ読んでください！

「サーカスの象」



サーカスにいる象は、鎖につながれておとなしくしています。本当は鎖を引きちぎり動き回ろうと思えば動き回れるのに…なぜでしょう？それは、象はまだ力が弱い小さいときからしっかりと足に鎖をつけて、象に対して「この鎖は自分の力でははずせないもの、取ることはできないんだ」と思い込ませているからだと思います。つまり、自分には本当は鎖を引きちぎる力がついてきているのに、「自分はどうせできないんだ。鎖をはずすことはできないんだ。」とあきらめてしまっているのです。みなさんはどうですか？サーカスの象のようになっていませんか？自分には本当は力があるのに、やればできるのに、最初から「自分はできないんだ。無理なんだ。」とあきらめていませんか？先生は人の可能性を信じています。最初からあきらめてやらないのはもったいない。何にでも「自分はできる」と思ってチャレンジしていきましょう。

「できないと言うことの方が難しい」

日本の新幹線やロケットの開発に携わり、「新幹線の生みの親」と言われる島秀雄さんが次のような言葉を残しています『「出来ない」というより「出来る」と言う方がやさしい。なぜなら、「出来ない」というためには何千何百とある方法論の全てを「出来ない」と証明しなければならない。しかし、「出来る」と言うためには、数々ある方法論の中から、たった一つだけ「出来る」と証明すればいいからである。』

「できない」というためには、ありとあらゆる方法を学び、試し、努力しその上でやっと「できない」と言えるのに対し、「できる」ためには、たくさんの中から、できる方法をたった一つだけ見つけ出せばよいということです。たった一つのことを試しできなかったから「できません。」というのは本当に「できない」ということではないのです。失敗しても、すぐにできなくてもありとあらゆる方法にチャレンジする。その先にはきっと「できる」が見つかっていくことなのでしょう。

平成29年度そして、本校舎での学びも無事 終了します！

平成29年度がもうすぐ終了します。それと同時に、長い歴史を持つこの校舎での上新田小学校もこの3月末で幕を閉じます。これまでたくさん子ども達、保護者、先生方が学び、活動したこの敷地での上新田小学校。関わった人それぞれにたくさんの思い出があるだろうと考えます。また、この校舎の古さ、傷や汚れの一つ一つがたくさんの人との絆の表れなのだと深く思います。この時が来るのはずっと前から分かっていたことなのですが、いざ、その日が来るとやはり、さみしさがこみ上げてきます。特に長年慣れ親しんで来られた地域の方々の想いはいかほどかと存じます。しかし、時の流れとともに新たな物語が生まれるのも人間が長い間紡いできた歴史そのものです。「学びの丘 上新田学園」でこれからの子どもたちが新しい歴史を力強く作っていつてくれることに期待したいと思います。

今年度も、保護者や地域の皆様には本校の教育活動に対し、たくさんのご協力・ご支援をいただき誠にありがとうございます。おかげさまで、この1年も本校にとってさらなるステップアップができたように思います。来年度からは小中一貫教育校としてさらなるパワーアップができるよう、引き続きご協力・ご支援をお願いいたします

これまでのご協力本当にありがとうございました。

